

# 文化・文芸

☒bunka@asahi.com

日曜～金曜掲載

## 子どもの瞳に 平和への思い

### 戦争体験 絵の根幹に

愛らしい子どもの絵を描いた絵本画家いわさきちひろ(1918～74)が今年、生誕100年を迎えた。戦争体験から絵に込められた平和への思いは、今も多くの人の心に響き、各地で画業を紹介する展覧会が相次いで開かれている。

### いわさきちひろ 生誕100年

東京駅直結の東京ステーションギャラリーで7月から始まった回顧展では、約2000点の作品が展示され、すでに約3万3500人が来場している。このお盆には特にぎわいをみせ、長年のファンだった高齢の人や家族連れらが訪れているという。

今もそう信じる人たちがいるからこゝろと話した。

「青春時代のあの若々しい希望を何もかもうち砕いてしまふ戦争体験があったことが、私の生き方を大きく方向づけているんだと思います。平和で、豊かで、美しく、可愛いものがほんとうに好きで、そういうものをこわしていいこうとする力に限りない憤りを感じます」

女の子に入った12歳で満州事変が起り、終戦直前の大空襲では家を焼け出され、命からがら逃げ惑う体験をした。戦後、平和運動に注力。活動の中で洋画家丸木俊(1912～2000)にも出会った。丸木は被爆の惨状を伝える絵本『ひろしまのピカ』で知られる。

ちひろの長男で美術評論家の松本猛さんは「何の罪もない子どもを犠牲にしてはいけない」という強い思いがあった。愛され続けているのは、



「戦火のなかの少女」(1972年)



⑤「小鳥とあかちゃん」(1971年) ⑥54歳のいわさきちひろ  
＝「ちひろちひろ美術館提供」



ちひろは出産後、30代後半から挿絵や絵本に本格的に取り組み、肝がんで55歳で亡くなるまで約9500点以上の作品を残した。子どもや花、チヨウなどのモチーフを好み、『窓ぎわのトットちゃん』(黒柳徹子著)の挿絵も手がけた。紙に絵の具をにじませる独特の手法で、草薙奈津子・平塚市美術館長(神奈川県)は「誰にでも取っつきやすい美しさがある」と評する。

戦争そのものを主題にした絵本も3冊残した。生涯の最後に完成させた絵本『戦火のなかの子もたち』(73年、岩崎書店)は、戦時下のベトナムの子もたちと自身の戦争体験を描き、累計部数は22万8千部。鉛筆の線はラフで、モノトーンに近い色使いに抑え、紙がはがれるほどすりつけた消しゴムの跡もある。横を見る子ども顔には普段は描かなかった白目があり、耐え忍び生きる子どもの心情が迫ってくる。

被爆者の手記を基にした『わたしがちいさかったときに』(67年、童心社)も累計29万7千部に達した。終戦から73年、東アジア情勢は緊迫し、憲法改正も政治日程に登場しつつある。松本さんは「ちひろは戦後の平和運動や民主化運動の機運が高まる中で画家として歩み始め、憲法に込められた平和主義の精神が、生き方の根幹を貫いた。絵はその精神を今もなお伝えていっている」と話す。(森本末紀)

各地で展覧会  
東京都千代田区の東京ステーションギャラリーの回顧展「生誕100年 いわさきちひろ、絵描きです。」は9月9日まで。9月30日を除く月曜休館。京都、福岡にも巡回予定。東京都練馬区と長野県松川村にある「ちひろ美術館」では、ちひろの作品と現代作家がコラボレーションする「Life展」を年間企画として開催中。

## 語る

——人生の贈りもの——

### 司馬さんと旅 毎日違う話

11

安野 光雅



ともか交えて食事をするんだけど、その時の話が毎日違う。しかも遅れてくる人がいると、配慮してそれまでのお話をすじまで話してくれる。ある土地の名士が「司馬さんは奥さんを連れていて」と聞いて探してたら、それは須田さんだった、という話をしてくれました。須田さんは細面で長髪でね。

は「司馬さんしたら」「いつもに比べて、関係が深くなった。」「司馬さんの、古戦場を、後で、

### 火 松村圭一郎のフィールド手帳

世界は、人間が、たが、人間、には、女性、を、喜、然、に、問、い、

### 「想定外」が問いを深める

### 水 後藤正文

関係、を、重、復、を、深、

### 木 福岡伸一

問、で、